

赤ペンと鉛筆

岩田涼子

校正を始めて25年たちました。途中、出産での中断、校正の仕事がほとんどなくパソコンでの入力やテープ起こしなどの仕事を中心の時期もありましたが、現在は校正もコンスタントにできる環境になり、テープ起こしも続けている状況です。

さて、校正に関するツールのお話ですが、振り返るとあまりこだわりなくやってきたことに気づかされました。それでも一応校正という仕事は続けてきたわけなので、今まで使ってきたツールのほんの一部、筆記用具のことにふれたいと思います。

校正といえばなくてはならない赤鉛筆。実際はボールペンを使うことが多い。校正するにあたって、以前長く中心だった仕事に関しては赤・青のボールペン、赤・青の色鉛筆、鉛筆(シャープペンシル、以下シャープペン)ぐらいしか使っていませんでした。一部訂正が中心で、あまり訂正箇所がなかったという特殊性にも関係していると思います。

会社に勤務していた約5年間は、Z社の0.7ミリのものが指定でした。書きやすかったのはよく覚えていますが。ただペン先が丸めだったので細かい字には少し難があるように感じていました。フリーになると、自分の好きなものを使えるわけですが、こだわりのないわりには文房具は大好きなので、あれこれと試して使いやすいものは使い続けるというぐあいです。

ボールペンも、仕事を始めたころは油性のものが中心。太さは一般的な0.7ミリのものをよく使って

いますが、同時にプライベートでも使える、細い字が書けるということで、数社から出ている0.5ミリの4色ボールペンも現在の相棒。0.4ミリというのも出ており、手帳などにはたいへん便利ですが、仕事に使うには細すぎるようであり出番はないですね。

最近、その油性よりも愛用しているのは、水性顔料のゲルインクのもの。水性ではすぐににじんでしまうので好きではなかったけれども、この水性顔料が多く出たころ、こんな書きやすいものが……と感激したような記憶が。

ゲルインクのものも、仕事にというよりは、使い始めたきっかけは手帳やハガキに書きやすいことだったので、細さにはかなりこだわりました。現在では大手メーカーから各種出ていますが、私が使っているのはP社とM社のもの。P社だと0.3ミリ、M社のものは0.28ミリがいちばん出番が多いです。

これはおそらく、自分の書く字の大きさも多分に関係しているかと思えます。私の書く大きさだと、細かいところまできちんと書くには、この細さがいちばん書きやすく、字がつぶれてしまうストレスもありません。

油性もゲルインクも校正の際には活躍しています。紙の質によって読みにくいなどという場合がありますので、時と場合によって使い分けています。中心はゲルインクです。

ボールペンとともに必ず使うのは、疑問出し*

チェックなどで必要な鉛筆。現在はシャープペンを使うことが多いですが、紙の質によってシャープペンだと細すぎて読みにくくなってしまうような場合、鉛筆のほうが威力を発揮してくれるので、これもまた両方使っています。3Bだと書きにくいものでもあまり力がいらないので、現在はこの濃さばかりです。

シャープペンもあまりこだわりはなかったのですが、いつも手近なものですませていましたが、使っているうちにZ社のものを使い心地がいいことに気がつきました。自分のペンの持ち方にいちばんしっくりくるようです。

数年前に「ミニ」シリーズ(シャープペンだけでなく油性ペン、ゲルインクなど多数あり)が登場しました。Z社の人気製品のミニ版というものがあり、これが私にとって最大のヒット。とても使いやすく、色違いで何本も購入。ストラップもついているので携帯などにもつけられ、持ち運びもとても便利。これだけは手放せないというものになりました。短いけれどもグリップの部分に合わせているようで、書きやすく、疲れない。この本家本元も使ってみました。ミニのほうが使いやすいです。

赤ペン、鉛筆だけでダラダラと書いてしまいました。校正に関する筆記用具を選ぶ私なりのポイント、長く作業するときにかにストレスがたまらないか、これに尽きます。さらに使っていて楽しければなおよし、ということですから使いやすいものを追求して仕事の一助にできればと思います。

*疑問出し 用字や用語、内容などについて疑問が生じた際、「○○ではないでしょうか？」などと記入して、解決を求めること。編集者や著者が、そのままできると判断した場合は簡単に消すことができるよう、鉛筆で記入するのが普通。